

(Ⅳ-27) 郊外型大規模店舗の買い物行動特性

長岡高専 学員 渡辺愛子
長岡高専 正員 湯沢 昭

1. はじめに

モーターレーゼーションの発達と共に、郊外型大規模店舗が各地にオープンしてきている。これらの店舗の立地特性は、単独店舗の出店ではなく複合店舗が一カ所に集中しているというところにある。

本研究は、「上越ウイングマーケット」を調査対象地とし、マーケット内での消費者の買い物行動の実態調査結果から、今後の郊外型大規模店舗の問題点について検討を行うものである。

2. ウイングマーケットの概要と調査の内容

「上越ウイングマーケット」は、平成6年11月に新潟県上越市に立地しており、総面積約15ha、店舗数約100、駐車可能台数約1,700台を有する東日本でも屈指の郊外型大規模店舗である。また北陸道上越インターに隣接しており、18号線バイパス沿いにあるという立地条件の良さから、上越市内は勿論、近隣の市町村や近県の長野県、富山県、さらには石川県などからも消費者が訪れている。

ウイングマーケット内のある店舗は、土日と祭日にしかオープンしないため、平日の混雑はそれほどでもないが、オープン時はかなりの混雑になる。従って、本研究では休祭日の実態を中心に分析を行う。

調査方法は、来訪者を対象にアンケート調査を行い、その結果をもとに種々の分析を実施した。調査は平成7年5月にマーケット内で2,000通の調査用紙を直接配布し、約300通の回答を郵送回収によって得ることができた。尚、調査の内容は以下の通りである。

(1) マーケットの利用状況

利用回数、目的、購入金額、交通手段の調査。

(2) 施設を利用した感想

マーケットを利用した感想、居住地付近の商業施設とマーケットを比較した感想。

(3) マーケット内における回遊行動の把握

マーケット内を10のゾーンに分割し、ゾーン間の

移動と行動目的の変化について調査を行い、消費者のマーケット内での回遊行動を明らかにする。

本論文では特に、回遊行動について検討を行う。

3. 調査結果の考察

(1) 利用者特性

本節では、消費者の居住地を上越市内と上越市外に分けて分析を進める。サンプル数は、上越市内113、上越市外122である。図-1はマーケットの利用回数の結果を図示したもので、上越市内では21回以上が最も多く、市外では初めての利用が最も多いという全く逆の結果になった。買い物金額の結果を見てみると、市内の方が市外に比較して少な目である。また飲食費の結果では、市内の約8割は飲食をしていないが、市外は6割が飲食している。このことから遠方からの来訪者は、買い物目的と併せてマーケット内でのレジャー活動も行っていることが分かる。

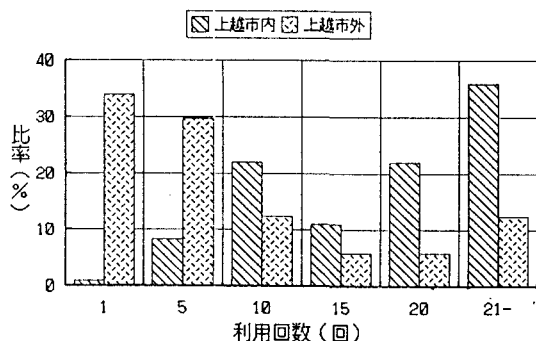


図-1 マーケットの利用回数

(2) 回遊行動の分析

図-2はゾーン別の立ち寄り率とゾーン間の移動量(回遊行動)を図示したものである。図から明らかにゾーンによって立ち寄り率と移動量に大きな差が生じていることが分かる。特に食品を安く販売しているゾーンⅠは、最も立ち寄り率が高く76

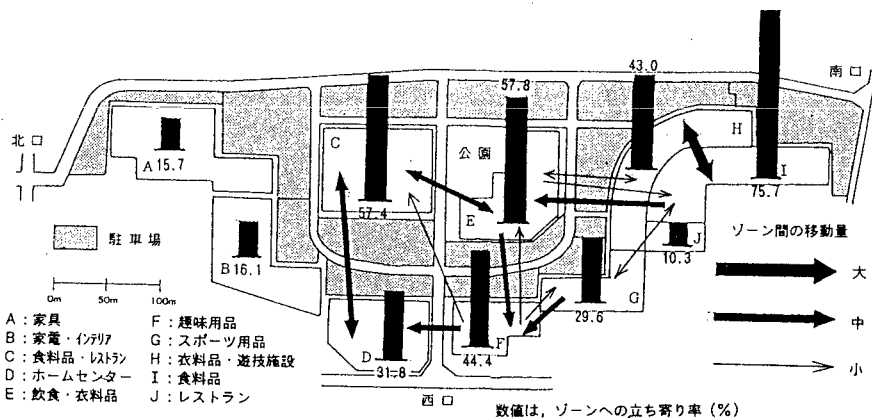


図-2 ゾーン別立ち寄り率とゾーン間の移動量

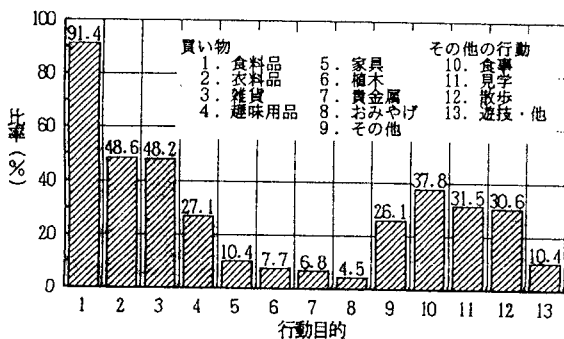


図-3 マーケット内での行動目的

%を占めている。またゾーン間の移動を見ると、ゾーン（I→H）間、（C→D→E→F）間での回遊行動が特徴的である。一方、ゾーンAとゾーンBは他のゾーンとの結びつきが低く、また立ち寄り率も低い結果となっている。これは取り扱っている商品が家具や家電等の耐久品であるためである。

図-3はマーケット内での行動目的を整理した結果であり、大きく「買い物行動」と「その他の行動」からなっている。最も高い値を示しているのが「食料品の購入」であり、全体の90%以上の人食料品を購入していることが分かる。次いで「衣料品」「雑貨」の購入が顕著である。その他の行動では

「食事」が38%である。また「見学」や「散歩（ウインドウショッピング）」の比率も高い値を示している。特に「見学」については、今後の郊外型大規模店舗建設のための参考とするため、全国から関係者の見学が絶えないとのことである。

他の回遊行動の分析結果は講演時に発表する。

4. おわりに

本研究は、近年増加している郊外型大規模店舗の買い物行動特性を分析したものである。その結果以下のようなことが明らかになった。

- (1)マーケットを訪れる消費者は、買い物行動は勿論、レジャー活動も1つの目的としている。特に遠方からの利用者にこの特徴がみられる。
- (2)回遊行動の分析結果から、一部のゾーンでは殆ど回遊行動が観察されなかったため、今後の店舗の配置においては十分検討を要する。
- (3)また、如何にして回遊行動を増加させるか、さらに回遊行動が容易に行えるための歩行時の安全性の確保と、快適な歩行者空間の整備が不可欠である。

最後に、本研究を遂行するにあたっては、(株)ウイングの柿村敏男氏には多大なる協力を得た。ここに記して深甚なる謝意を表す。